



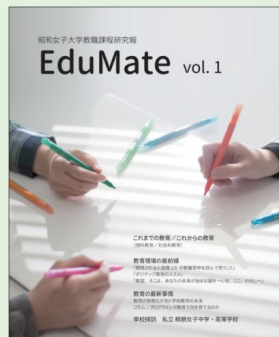
現代教育研究所

TOPICS : 発行物のご案内、コア・プロジェクト

発行物のご案内

転換点に立つ日本の教育、その座標軸を探求する!

このたび、教育現場のチャレンジを応援するフリーマガジン『EduMate』が誕生しました。今後も年1回のペースでお届けしていきます。購読希望の方は現代教育研究所まで、ぜひお問い合わせください。

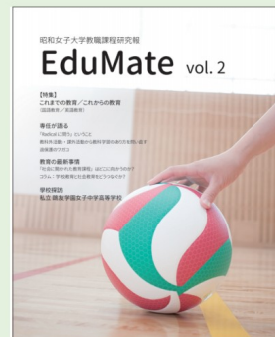


EduMate vol.1

〈主な内容〉
これまでの教育／これからの教育
(理科教育／社会科教育)

教育現場の最前線
「期待される人間像 2.0 中教審答申を読んで思うこと」
「ポジティブ教育のススめ」
「教室、そこは、あなたの未来が始まる場所
～いま、ここ、わたし～」

教育の最新事情
教育の情報化が拓く学校教育の未来
コラム: プログラミング教育で何を育てるのか
学校探訪 私立 桐朋女子中学・高等学校



EduMate vol.2

〈主な内容〉
これまでの教育／これからの教育
(国語教育／英語教育)

専任が語る
「Radicalに問う」ということ
教科外活動・課外活動から教科学習のあり方を問い直す
過保護のワガコ

教育の最新事情
「社会に開かれた教育課程」はどこに向かうのか?
コラム: 学校教育と社会教育をどうつなぐか?
学校探訪 私立 鷗友学園女子中学高等学校

コア・プロジェクト CORE PROJECT

Co-Creative Learning Session in ATOMI 2017

現代教育研究所と跡見学園中学校高等学校がコラボレーションし、共生社会を担うアクティブラーナーを育てるカリキュラムデザインとマネジメントを目指した「セッション」をレポートします。

生徒がワクワクするプレイフルな知の冒険構想がスタートしたのは2017年3月末。生徒たちが、トピックの広がり・つながりを見出す中で、学びの面白さ・奥深さを実感し、他者と共に「本質的な問い」を探究するプロジェクトは、「食」をめぐる知の冒険に旅立とう！～共創する学びへの招待～をテーマに動き始めたのです。

第1回

9月18日(月・祝)

「食と聞いて思いつくことは？～食の世界への誘い～」

キックオフは9月18日。25名の生徒と15名の教師が跡見学園中学校高等学校会議室に結集し、「チェックイン・アイズブレイク」の後、「食と聞いて思いつくこと」のシンキングマップづくりから始まりました。自分と仲間の経験・知識を手掛かりに食の世界を広げ、皆でシェアした一行は食の世界の入り口に立ちます。

続く、ミッションは「ニュース・ショー」。新聞・ニュース等、食をめぐるホットなトピックをベースにリサーチワークを行い、グループごとで探究の成果を「ニュース・ショー」としてプレゼンするのです。チョコからフェアトレード、フルーツから見える世界、野菜で学ぶ生物多様性、昆虫食ミドリムシから考える未来食、和食のヒミツ、フードロス。6つの「ニュース・ショー」に生徒も教師も夢中になり、食世界へのモチベーションは一気にドライブされました。



...NEXT LEARNING...

第4回

10月28日(土)

いい貿易って何だろう？～コーヒークップの向こう側～

第5回

11月4日(土)

千尋の両親はなぜ豚になったのか？
～ジブリアニメ「千と千尋の神隠し」より～

第6回

12月16日(土)

加工食品はどのようにしてつくられるか？～企業努力の現場～

第7回

2月10日(土)

食の世界はどこまでひろがる？～プロジェクトの成果発表～



第2回

9月30日(土)

「どこでどんな農作物を作るといいのか？
～地域の農家をみんな幸せにする方法～」

第2回目は地理学の立場から食と農業の関係に迫るのがねらいです。専門家としておいでくださった生田清人先生(ICU・駒沢大学・聖心女子大・海陽中等教育学校非常勤講師・元開成高校教諭)のレクチャーは都市からの距離によって最適な生産物が決まるという「チューネンの農業立地論」から始まりました。アメリカの農業分布を手がかりとするワークを通して、見事にその理論があてはまることを発見。日本の場合はどうなのかなど、生徒たちの探究が続きます。食料生産と流通の仕組み、そして社会状況とのリンクなど、地理学ならではの地図から読み解くアプローチを通じて農業を学んだ生徒たちのまなざしは大きく変容していきました。

第3回

10月14日(土)

「大好きなパスタは科学的に解明できるか
～科学と料理のおいしい関係～」

今度は科学の立場から食の世界に接近。専門家の藤田真理子先生(北海道大谷室蘭高校)のセッションは「ちりめんモンスターをさがせ!!」のワークからスタート。自分たちが決めた基準にしたがって、ちりめんモンスターをピンセットで分類する活動に熱中する生徒たち。カテゴリー化の手法を学んだ生徒たちの次なる挑戦は、大好きな料理を科学的にアプローチすること。グループごとに料理を決め、タブレットを用いながらリサーチしたものを他のグループにプレゼンします。食べ物の向こうに見えるものを科学的に探究する楽しさを物語るプレゼンが続きました。

夢中になって学び続ける生徒たちの姿は、ワークに参加する教師たちを少しずつ揺らし始めています。開発教育・古典教育・食品加工会社とのコラボレーション、これから続くセッションの中で、生徒たちがどのような食に関するオリジナルな「問い」を見つけ、そして、探究の冒険に出發するのか、Co-Creative Learningは、これからの正念場です。(青木・綴利)

グループ活動報告 GROUP ACTIVITY REPORT



理科教育グループ 日本理科教育学会全国大会口頭発表に向けて

定期的に会合を持ち準備を行いました。1回目の4月22日には、小川哲男氏(本研究所所属)から、「資質能力を育てる「対話」による資質能力の育成とこれからの理科教育経営」についてご講演いただきました。2回目の5月13日には、小刀禰進氏(大田区清水窪小)の講演を行い、10月に「全国小学校理科研究協議会研究大会・東京大会」の一環で行われる公開授業に向けた清水窪小学校のサイエンス・コミュニケーション科の具体的な実践と、新しい学習指導要領との関連性についての研究の一端をうかがうことができました。(白敷)



表現教育研究グループ 金沢市の「アート教育」に関する情報収集

8月24日～25日にかけて、石川県金沢市内の伝統文化・現代アートの拠点を訪ねました。24日は石川県立音楽堂にて音楽文化振興グループリーダー嶋田秀樹氏にインタビューの後、金沢21世紀美術館に移動し、市内在住の美術家眞壁陸二氏と懇談しました。25日は石川県立能楽堂を見学し、副館長松尾貞英氏にインタビューを行いました。両日とも所属3名と研究員1名の参加で、石川県立美術館や石川県立伝統産業工芸館など、計7カ所の文化施設を回り、地域の独自性を踏まえた数々の試みを知る機会となりました。(早川)

学習者(学生)	1つのステップ	最終者(教員)
① 新入生に「何をする、誰と何をやるのか」と発表する ・新入生の質問に答える、新入生にアドバイスをあげる	① 課題をあげる	① 新入生に「何を、誰と何をやるのか」と発表する ・新入生の質問に答える、新入生にアドバイスをあげる
② 課題を上手に「やりこなす」 ・自分の力で、(自分の力で)課題をこなす ・グループ内発表(発表の準備)	② 問いをつくる	② 課題を上手に「やりこなす」 ・自分の力で、(自分の力で)課題をこなす ・グループ内発表(発表の準備)
③ 教師からのグループワーク確認 ↓ ④ 自分だけの目標設定 ⑤ アセスメント(自己評価)をやる	③ 目標をつくる ④ 計画を立てる	③ ルールブックで確認、振り返り ④ 生徒の目標設定を振り返り ⑤ 評価シートを記入 ⑥ 生徒の振り返り
⑥ グループ内で中間的発表・振り返り の論文の書き出し、まとめ	⑥ 問いを探究し答えを出す	⑥ 振り返りシートを記入 ⑦ 発表の準備



松本祐也研究員 8/9 高大連携歴史教育研究会に参加して

高大連携は1998年前後から始まり、平成27年には高大接続改革実行プランが策定されたことで全国の高校で特色のある学びを推進され活発になっています。今回は関西地方の高校が行っている高大連携について調査し、3校(大阪府立北野高校、兵庫県立星陵高等学校、京都橘高等学校)の先生と情報交換を行いました。各校とも探究学習に力を入れており、大学関係者から深い学びが提供され、高校・大学とも貴重な情報源となっていることがわかりました。今後は地域ごとに高大連携の特色を考察していきたいと思えます。(松本)

友野清文所長 水戸・弘道館を訪ねて

8月24日・25日、弘道館(茨城県水戸市)と予科練平和記念館(同稲敷郡)などの見学に行きました。弘道館は水戸藩主徳川斉昭が1841年に創設した藩校で、日本最大規模と言われます。「正庁」と呼ばれる中心的な建物が保存されており、学問と教育に力を入れようとした藩の姿勢を改めて実感しました。予科練平和記念館は2010年に開かれ、予科練と海軍航空隊の資料を展示しています。予科練が兵士養成機関であると同時に、10代半ばの男子の教育の場であったことが確認できました。(友野)



英語教育グループ 7/6 レクチャーシリーズ

第二言語習得研究の世界的第一人者であるRod Ellis教授をお招きし、「アジア諸国と日本でのタスクに基づいた小学校英語指導の現状最新の理論を実践」について、ご講演いただきました。多くのアジア諸国において、小学校から英語教育が導入されつつある今日、コミュニカティブな指導、特に「タスクに基づいた言語指導: Task-Based Language Teaching (TBLT)」を活用することをご提案いただきました。(國分)



英語教育グループ 10/22 小学校英語活動イベント

内山加代子氏(Global Kids Place創設者)・Charlotte Morris氏(同講師)より「Greetings・The five senses・Direction・Table manners・Wrong words・Pollution (Science experiment)」の各トピックに関して、実際に具体的なアクティビティをご紹介いただきました。改めて、子どもの興味・関心や好奇心、想像力を高めるアクティビティの重要性を実感する体験となりました。(國分)



教科をこえる、社会にひらく！共創する学びへの招待 中学校・高等学校はどこにどう向かうべきか？

新学習指導要領で掲げられた「社会に開かれた教育課程」という基本理念をどう実現していけばいいのでしょうか？ 今回のフォーラムでは「共創する学び」というコンセプトを掲げ、これからの中学校・高等学校のあり方とつくり方を、皆さんとともに探求したいと思います。

■日時：2018年2月17日（土）10:30～16:30

■場所：昭和女子大学 コスモスホール（8号館 6階）

■ゲスト：山住勝広氏（関西大学 教授）

世界的な注目を集める活動理論研究の日本における第一人者

近著『拡張する学校：協働学習の活動理論』（東京大学出版会）

『子どもの側に立つ学校：生活教育に根ざした主体的・対話的で深い学びの実現』（北大路書房）

■内容：第1部（10:30～12:00）

中学校・高等学校を舞台に挑戦的な「共創する学び」の実現に

取り組まれてきた先生方（3名）による実践事例報告

第2部（13:00～16:30）

山住勝広氏の基調講演 + シンポジウム

■申込方法：当研究所ウェブサイトにて12月初旬から受付開始予定

参加
無料



<http://iome.jp/>



4月9日（日）に第三回所員・研究員懇談会が開かれました。年に一度、所員・研究員が一堂に会します。

友野清文所長から研究所の概要と平成28年度の活動報告があり、成果物としてNews letterや紀要をご紹介いただきました。

続いて、緩利誠副所長から今年度からのコア・プロジェクトの発表があり、協力者を募りながら活動計画を話していただきました。

最後にグループ毎の懇談を行い、会を閉じました。グループによっては懇談が続き、盛り上がりを見せていました。グループ以外の所員・研究員との懇談も望まれたため、次回からは交流がより多く持てるように工夫してまいります。

研究員
募集

現代教育研究所では研究員を募集しております。募集期間は年に1回、12月下旬から2月初旬です。ご興味のある方はHPからご応募ください。

新しく始まったコア・プロジェクト、Co-Creative Learning Session in ATOMI 2017の授業に参加すると、所員の先生方の情熱をひしひしと感ずります。コラボレーション先の跡見学園中学校高等学校の先生方も積極的に授業へ参加いただいております。これからのアクティブな授業展開が楽しみです。

下半期は年内発行となった紀要の編集、2月17日（土）現代教育研究所フォーラムの準備、コア・プロジェクトの継続と盛りだくさんになりそうです。（M.I）

昭和女子大学 現代教育研究所
Institute of Modern Education

所在地：6号館（旧2号館東棟）2T01B

開所時間：月・水・木・金 10:00～16:00

kyoikuen@swu.ac.jp 03-3411-7391 <http://iome.jp/>